

37. ブロイラーの肝臓における線維肉腫

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者名	布留川,せい子
発行元	
巻/号	46巻3号
掲載ページ	p. 194
発行年月	2010年11月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



37. ブロイラーの肝臓における線維肉腫 (Fibrosarcoma in liver of broiler)

キーワード：ブロイラー、膠原線維、線維芽細胞、線維肉腫

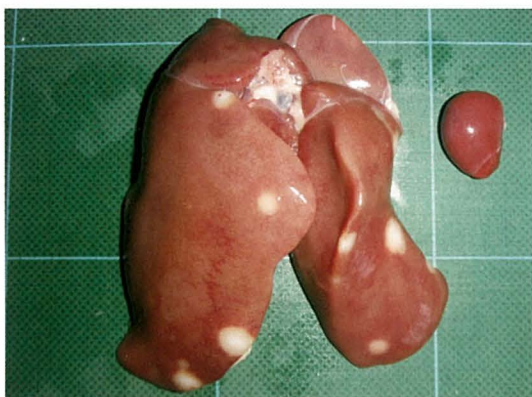


写真 1. 肝臓表面に見られた直径約 5 mm～10 mm の白色腫瘍。

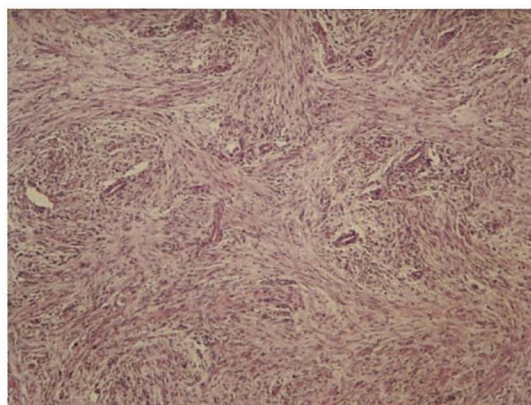


写真 2. 結節中心部。線維芽細胞に似た紡錘形細胞が、束状に増殖し縦横に交錯していた。HE 染色。

動物：鶏、ブロイラー、雄、54 日齢

発生状況および症状：2009 年 4 月 2 日に処理した同一ロット 4,394 羽中の 1 羽。生体所見は著変なし。

肉眼所見：肝臓表面に、直径 5 mm から 10 mm 程度の乳白色結節が散在していた。結節の表面および滑面において、結節と肝臓実質の境界は明瞭であった（写真 1）。

肝臓以外の諸臓器、消化管、体表等に異常は認められなかった。と体は同一ロットで標準的な大きさであった。

組織所見：結節は被膜をもたず、肝臓実質に浸潤性に増殖していた。全体として膠原線維および細網線維による線維成分が多く、線維芽細胞に似たやや明るい核を持つ紡錘形細胞が、束状に増殖し縦横に交錯していた（写真 2）。好塩基性の核小体をもつ異型核細胞もみられた。線維成分の多い所では、少数の肝細胞や胆管細胞が柵状に配列し偽小葉を形成していた。

解説：線維肉腫は線維芽細胞を由来とする悪性腫瘍で、分化度の高いものでは種々の割合に膠原線維等の線維成分を含む。本症例は特に線維成分が多く、腫瘍細胞が多中心性かつ結節性に増殖している像が特徴的であった。若齢のブロイラーにおいて、鶏白血病ウイルス（A 亜群、J 亜群）の関与による線維肉腫の報告があるが、本病変からのウイルスの存在は証明されていない。一方で、同ロットに「紡錘形細胞増殖性疾患」「組織球肉腫」と言われている疾病が多発していた。